

➤ 19日 水曜

使徒

12:13 彼が門の戸をたたくと、ロデという名の召使いが対応に出て来た。

12:14 そして、ペテロの声だと分ると、喜びのあまり門を開けもせず奥に駆け込み、ペテロが門の前に立っていることを知らせた。

12:15 人々は彼女に「あなたは気が変になっている」と言ったが、彼女は本当だと言いつ張った。それで彼らは「それはペテロの御使いだ」と言った。

12:16 だが、ペテロは門をたたき続けていた。彼らが開けると、そこにペテロがいたので非常に驚いた。

12:17 ペテロは静かにするように手で彼らを制してから、主がどのようにして自分を牢から救い出してくださったかを彼らに説明し、「このことをヤコブと兄弟たちに知らせてください」と言った。そして、そこを出て、ほかの場所へ行った。

12:18 朝になると、ペテロはどうなったのかと、兵士たちの間で大変な騒ぎになった。

12:19 ヘロデはペテロを捜したが見つからないので、番兵たちを取り調べ、彼らを処刑するように命じた。そしてユダヤからカイサリアに下って行き、そこに滞在した。

12:20 さて、ヘロデはツロとシドンの人々に對してひどく腹を立てていた。そこで、その人々はそろって王を訪ね、王の侍従ブラストに取り入って和解を願い出た。彼らの地方は王の国から食糧を得ていたからである。

12:21 定められた日に、ヘロデは王服をまとい王座に着き、彼らに向かって演説をした。

12:22 集まった会衆は、「神の声だ。人間の



声ではない」と叫び続けた。

12:23 すると、即座に主の使いがヘロデを打った。ヘロデが神に栄光を帰さなかったからである。彼は虫に食われて、息絶えた。

12:24 神のことばはますます盛んになり、広まっていった。

12:25 エルサレムのための奉仕を果たしたバルナバとサウロは、マルコと呼ばれるヨハネを連れて、戻って来た。

一時は絶対的な権力の前に虫のように弱く見えるようなクリスチャンたちでしたが、状況は一変しました。ペテロは絶対に助からないだろうというのが仲間たちの本音だったようです。祈っていたのに救出を信じていなかったのです。それでも主はみわざを起こされました。このことから分かるように、とにかく祈ることです。

強いヘロデの側について弱いクリスチャンたちを苦しめていた兵士たちは、結局そのヘロデに処刑されてしまいました。誰につくかは非常に重要なことです。

またそのヘロデ自身も、最も弱い存在とみなされるような虫に殺されてしまいました。彼は神と自分が同一視されていたが、それを良しとして自分を神と同列に置いたのです。または神を自分のレベルに引き下げてしまったのです。

人を恐れるとわなにかかりますが、主に信頼する者は救われるという箴言のことば通りのことが、使徒の働き時代には起こっています。それは現代も同じで、今も当時と同じ聖霊の時代であり救いの時代です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

